

令和 6 年度 協働のまちづくり活動支援事業公開選考会

<事業内容・質疑応答>

1. 特定非営利活動法人恩おくり



【事業名】食の支援拠点を広めよう！出張・協働フードパントリー実践&広報大作戦

◆事業内容

○市内の子ども食堂や食品配布団体の活動情報と今回の出張フードパントリーの開催情報を掲載したチラシを市内全域に配布する。その上で、市内で子ども食堂等を行う他団体の拠点に出向き、食品配布を共催する。可能な限りカフェや食堂、専門家による相談会を同時開催し、交流機会を持ち必要に応じて支援に繋がれるようにする。

当法人は、2022 年 12 月から 2024 年の 2 月まで、任意団体の「NPO 団体 おんくりの輪」という名前で活動をしていたが、先日、法人格取得し団体名も変更した。住民同士の支え合いを生み、住み続けたく、住み続けられるようなまちづくりに取り組むため様々な活動をしている。具体的には、地域の居場所の開放、多世代向けイベントの企画開催、商店街や地域振興、子ども食堂や地域食堂、フードドライブやフードパントリー、フードバンク、支え合い活動等、様々な研修会や交流会なども企画、開催をしている。

補助金は令和 5 年度にも頂いており、フードドライブを実施した。当時の問題意識として、フードロス問題への対策、経済事情など食品入手の困難を感じる背景がある方への支援、アルバイトに時間を費やし学業が疎かになる大学生の存在があり、食品配布も行うことで、食の支援と人から人へ食品を手渡すことでつながりを感じてもらえるのではないかという仮説があった。

令和 5 年度に実施した内容として、江別市内ほぼ全域にフードドライブ実施のチラシを配布した。食

品の収集と合わせて、配布と無料のカフェを当法人拠点である「おんくりの家」で実施した。その結果として、たくさんの食品が集まり、受け取り希望者も非常に多かった。また、イオン江別店でのフードドライブ食品も当団体へ寄贈される等、市内で新たな動きが始まった。また、新聞やラジオでも広報して頂き、話題にされる機会が非常に増えた。市民や市民活動団体からの問い合わせや相談も多くあり、市全体へインパクトを与えられた。

令和5年度事業から感じた課題は、市内の広い範囲で食品を必要としている人がいる事である。当団体は、大麻扇町商店街に拠点があるが、2時間近く歩いて食品を受け取りに来る方がおり、大変な思いをしながら食品を必要としている方の存在があることが分かった。今後は自身の拠点だけでなく、江別市内の至る所で実践する必要がある。また、食品を受け取るだけでなく、居場所や子ども食堂の活動を求めている人もいる。当拠点で今年度実施した時には、無料のカフェ開放も行い、今まで出会う機会の無かった方同士が、そこでお話をしている様子を見て、食品だけでなく、交流する時間も大事と実感した。

また、実践者や要援助者からの声として、実践したいけどどうしたら良いか分からない、フードドライブをしているが食品が集まらない、広報が上手く行かない、どこに子ども食堂等があるのか分からないという様々な声も届いた。したがって、食関連の支援団体がいつどこで活動しているのかを知らせる媒体が必要なのではないか。その課題を基に、行政や社協、企業との関係組織機関、活動団体等が連携し、情報共有する仕組みを構築し、協力しながら効率よく市民に手を差し伸べられるようにしたいという思いから、関係者を巻き込んだ協議会を立ち上げた。一昨日の3月14日に1回目の会議と交流会を実施し、本日の北海道新聞の朝刊にもその時の様子が報道された。当日は、市役所関係課や社協、企業、こども食堂北海道ネットワーク、全国子ども食堂支援センターむすびえ、活動団体等、計356名の方が参加した。今後もネットワークに加わる方を拡大していきたい。この団体間の連携を取り、課題を解決する一助として本事業を応募した。

申請事業概要は、当法人が市内の活動団体拠点に出張し、一緒に食品配布とカフェ、または子ども食堂、地域食堂を開催する。くらサポ等の支援機関にも来てもらい、支援に繋がる体制で実施する。その開催情報と市内の子ども食堂等の活動情報を掲載したチラシを、大麻を除く市内全エリアにまんまる新聞を折り込み配布する。大麻扇町エリアに関しては、今年度に団体が実施する事を周知したので除いている。食品寄贈に関しては当法人の拠点で受付し、出張拠点は大麻扇町以外のエリアとした。開催時期については、6月、8月、10月、12月、2月に、それぞれ市内で子ども食堂を行っている団体に出向いて実施する予定。6月については、当法人を拠点にしたモデル実施として、他団体からの見学推奨とし、やり方や様子を見てもらう事で、それぞれの拠点で出来る事や難しい事を考えるきっかけにしてもらう。8月は眞願寺、10月はてまりの華、12月は更生保護女性会のにこにこ食堂、2月はあすかの森認定こども園のななかま堂で、食品配布と子ども食堂等を同時開催する約束を頂いた。

事業に期待する効果として、食に関する支援を行う場所が市内に多くある事を市民に伝える事が出来る。また、食品配布等の開催地が市内の広い範囲になり、複数拠点となるので、市民が身近

な社会資源を知るきっかけとなる。また、それぞれの団体と協働する事で、その後、各団体が独自に配布活動も行えるきっかけともなる。そして、未利用食品の有効活用が促進され、食ロスの更なる削減に繋がる事も期待している。食品ロスの削減やフードバンクの推進に関しては、先日の江別市議会の一般質問でもされ、今年度の大学連携調査研究補助事業で北翔大学がフードバンク創設に向けた研究を行われ、そこに当 NPO が協力して取り組んでいる事を、市長から回答された。市としても食品ロスの削減に関しては積極的に対策を講じる意向が示されており、当法人の事業は市の課題としても、解決の糸口になると考えている。

収支予算として、収入の部としては、自己資金として 152,440 円。その他、民間の助成金を 68,094 円申請予定。合計額で 220,534 円となる。支出広報費が大きく占めているが、チラシの印刷代については別の助成金を応募する予定で、チラシの折り込み代を当補助金に充当したい。各拠点に出向く時に、ボランティアの学生と一緒にいる機会があるので、交通費も申請している。申請額は、合計 147,000 円となっている。

今後の展望として、フードバンクを令和 6 年中に開始する。これらを北海道フードバンクネットワークとの連携も図りながら、食の流通を必要としている方に届けられる仕組みを図っていききたい。フードサポートネットワークに、多数の企業等が加わって流通の効率化が図られる事も期待している。令和 7 年度以降の展望として、市内の子ども食堂と団体の情報にアクセスできるデジタルマップを作成したい。それが食支援のプラットフォームになるようにしていきたい。江別市がすべての人にとって安心して暮らし続ける町であるよう、協働のまちづくり活動を引き続き頑張りたい。

◆ 質疑応答

【選考委員】

先月の事業報告会の時に、3 回の実施により本当に必要な方に配布出来ているのかは、見極めが非常に難しく、場合によっては見極めが出来ないと聞いた。また、3 回目の実施時には、食品の奪い合いが見られたとの報告も聞いた。そして、今後の内容を充実する為に、来場者アンケートを用意したが、アンケートの協力が得られなかった事の反省点も聞いた。その点を踏まえ、令和 6 年度はどのようにして解決して行くのか。

【発表者】

申し上げて頂いた通り、見極めについては非常に難しい課題になる。先日の交流会の時に、各団体も同様に子ども食堂を実施しているが、その参加者の中には本当に必要としている方が来ているのだろうか、という疑問の声も挙がっていた。

私達としては、まず、令和 6 年度の事業で、皆様のお住まいの近くに活動拠点があり、本当に困った時にそこへ出向ける事を知って頂く。そして、自身の近くにこのような温かい場所がある事を知って頂くきっかけを作りたい。

私達が出張して配布する際に、本当に必要なのか分からない方が混ざっている可能性も大にある。活動を続けていく中で、本当に必要な人かどうか振るいにかけながら、対象を狭めていき、必要

な方の支援に繋がるようなきっかけ作りをしていきたい。

来場者のアンケートは、令和 5 年度のの当団体のやり方の失敗として、食品を受け取ってからアンケートをお願いする方法にした所、一度食品を渡してしまうと、書かずに帰ってしまった。次回はアンケートを書いてから食品を受け取る形式を取り、奪い合いにならないように、予め 1 セットで包んだ状態の渡し方を検討している。

【選考委員】

江別市内に拠点を広げていく為には、広報活動が大事であり、今回は、まんまる新聞にチラシを折り込む為の費用で計上されているが、例えば、これを記事として扱えば、チラシ代が浮き、活動費に回せるのではないか。または、単にチラシを作るだけでなく、それを持って来る事で、会場へ来やすくなるような内容等を考察しているのか。

また、生活困難者との差別化が出来ず、色々な方に渡ってしまうとあったが、それを本当に必要としている方に渡ったかどうか分からないという状況もあり、線引きはとても難しいとも言っていた。継続していく中で、振るいに掛けていくという言葉があったので、それを信じ、本当に必要としている方に物が渡っていくように、考えながら事業を展開して頂きたい。協働で協議会を立ち上げ、市内全域に広域化されている事に感銘を受けた。くらサポとの連携は、特に今の生活困窮者に働きかける上でとても重要なので、1 年間、恩おくりの動きを注目したい。

【発表者】

新聞記事にすると、狭い範囲の小さな枠の中で、限られた情報の掲載にしかない。特定の日に、特定の場所で出張配布する事を、都度、記事掲載する事は考えているが、今回のチラシの中には、子ども食堂の開催日や開催場所の情報もまとめて一つにして配布する予定。それにより、周囲にある子ども食堂の存在を認知して頂き、知らなかったという声の解消に繋げたい。チラシに情報をまとめて掲載し、その 1 枚で様々な情報にアクセス出来るような媒体を用意する為に、チラシの内容についてはこだわっている。

【選考委員】

感想になるが、非常に素晴らしい活動だと思う。本当に必要な方へ行き届く為には、広報も 2 種類で考えた方が良い。生活困窮者の方だけにターゲットを与えると行き届きにくくなる為、全面的に広報する事はとても大事。その一方で、公的機関とどのぐらいまで情報を流して頂けるか分からないが、ピンポイントで情報を届けられるような仕組みもあると良い。また、集める食料は十分に足りて上手く行っているのか伺いたい。

【発表者】

2 か月に 1 回、コンスタントに配布していく事が初めてなので、どのぐらいの食料品が集まるのか不安であるが、イオン江別店でフードドライブをする時は、段ボールにするとおよそ 3~4 箱集まる。その他、団体から直接届けて頂いたり、江別市廃棄物対策課の方から企業紹介をして届けて頂いたり、今の

所は比較的コンスタントに食品が集まっている。賞味期限に注意しながら、各拠点に偏りが起きないように分配していきたい。

また、広報については助言いただいた通り、2 種類取り入れて広報していく。

【聴講者】

もし、参加者と知り合いになれば、LINE 等で日常的に繋がって交流が出来るが良い。現在、スマホはお年寄りも使う時代で、不得意な方もその使い方を教える事で活動の意義がある。他の団体とも、日常的な繋がりが出来るように、LINE 等を活用して、たまに話すだけでない、本当の日常的な繋がりとして使って欲しい。

また、市内の子ども食堂の情報にアクセス出来るデジタルマップを作成するのは、どこまで実現性があるのか。ぜひやってもらいたい。

【発表者】

LINE で繋がる事に関して、来場者同士の個々の繋がりにおいては、それぞれが判断する事だと思っている。団体側から LINE で繋がって下さいとアナウンスするのは違うと思っている。

ラインのグループ機能については、関係者同士にグループ LINE を使って情報発信、情報共有をしている。しかし、市民の方とどういった媒体を使ってお互いに意見交換や情報交換をするかは、ご時世もあるので、慎重に判断する必要がある。何らかの市民の方の声がダイレクトに届き、それが双方にやり取りが出来る手段があれば、市民の方の孤立感や孤独感の解消に繋がる為、積極的に検討していきたい。

【聴講者】

食品を配った時に、アンケートにどうしたら回答してもらえるかという問題について、先程会場の質問でも触れていたが、今は高齢者もスマートフォンを持っている時代である。例えば、QR コードを提示して Google フォームによる Web アンケートで回答する手段もあると思う。Web アンケートの利用については検討したのか。

【発表者】

Web アンケートは、確かに集計も非常に楽で、取り入れたいと思っていた。しかし、Web アンケートで回答をお願いしても回答を得られない結果が多い。確実に回答してもらう為にも、基本的にはその場で回答して頂き、間違いなく回答を得てから食品を渡すという方法を優先したい。

【聴講者】

要望として、ぜひ料理教室的な活動もして頂きたい。ご飯や食材を配布して頂けるのは有り難いが、それが調理出来なければ胃袋に入らない。どのように料理したら分からない事もあるので、そういう活動があれば食材も使いやすくなる。

質問として、先程の方が言ったように、Web 媒体もしくは SNS 等の利用方法の検討に関して、ど

の程度考えているか。

【発表者】

料理教室について、その食材の調理方法を教えるという点に関しては、確かに食材を受け取っても、調理スキルが無い方や、経済的な事情で調理をする事に課題がある方もいる。本当にすぐ食べられる缶詰や、お湯を注いだけで食べられるカップ麺等の需要が非常に高い。

確かにフードドライブを開催して頂く食品の中には、どのように使えば良いか分からない物も頂くので例えば、こう使えば簡単に美味しく食べられる等の情報を回答出来る準備をする必要がある。現在、令和 6 年度に予定をしている食品配布と同時に、子ども食堂を同時開催する事がある。その時に、子ども食堂の調理場の規模次第では、どのように使ったら良いか分からないと聞かれた時に、そこで回答する事であれば近々で準備対応出来る。

また、SNS 等の Web 媒体の活用については、HP や Instagram、Facebook は既に活用しており、情報発信している。しかし、予定よりも早く法人化した事もある為、その切り替えが十分に整って居ない。これからしっかりと整えた上で、法人として情報発信し、Web サイトを活用して実施したい。

【聴講者】

例えば Google Map は無料で使える。それを利用するのはどうか。食品配布をしている場所の情報発信が必要だと言っていたが、Google Map では、マイマップを作成する事が出来る。そのマイマップは、個人や法人でも作成する事が出来、Google のアカウントさえあれば作成出来る。マイマップは各地点を登録する事が出来るので、食料配布をしている拠点をまとめたマイマップを作成し、その URL や QR コードを公開する事が出来る。そのような利用の仕方は如何か。

【発表者】

先程の報告の中で、令和 7 年度にそのようなデジタルマップ活用するために準備をしている。フードサポートネットワークにそのようなデジタルマップを活用して通して活動を広げていく予定がある。

2. こども支援ワーカーズみんなのいえ



【事業名】不登校児童居場所支援と地域でつながる講演会

◆事業内容

○週 1 回の居場所づくり「大麻ベース」子とその親が参加、子どもは自由に読書、勉強、ボードゲーム、積み木遊びなどをして過ごせる。大人はお茶を飲んでくつろいでお話しして交流できる。

私達は、地域の大人が集まり、我が子だけでなく地域の子どもたちのために何かできないか、必要とされているものは何か、課題解決のためにできることはないかと思い、非営利の団体を立ち上げた。

PTA 活動や少年団活動を中心に、様々な地域活動、ボランティア活動で繋がったお母さん達と一緒に設立した団体になる。

活動内容として、大きく4つの活動をしている。1つ目は、中高生の居場所支援、これは、教育格差等、様々な問題があるので、地域の中に多様な居場所があり、自由に出入りができ、冷暖房や電気、静かな環境で誰でも自由に勉強が出来る場を、地域の中学生や高校生のために、学童が行われていない時間に場所を開放している。今月は、退職した英語の教師が英語を教えに来てくれた。

2つ目は、自由に遊べる子どもの居場所としてプレーパークの活動、今、子どもは「仲間」「時間」「空間」の「3間」が無いと言われていて、遊びが成立していない。子どもの声が騒音になる声があるため、しっかりとした遊び場を保証しようという活動をしている。こちらも数年前、この協働のまちづくり支援事業で応援いただいており、活動を継続して行っている。

3つ目は、子に優しいまちづくり連続講座として、江別市に子供の権利条例を制定させるため、約10年前から他団体と繋がりながら活動を行っている。また、地域が繋がるアットホームカフェとして、地域の大人達が自由にお茶を飲みに来て話せる居場所づくりも実施している。

4つ目は、放課後児童クラブ、みんなのいえ、これは、働いているお母さんの子ども達を預かり、豊かな放課後、豊かな子ども時代を送ってもらうために活動をしている。

これらの活動の中で、放課後児童クラブのみ補助金と保育料いただいているが、それ以外の3つの活動については、自分達のボランティア活動と、私達でお金を少しずつ寄付しながら活動を行っている。

私達は、地域の課題を常に見つめ、話し合いながら、チャレンジ出来る事は何か、会のメンバーで話し合っている中で、現在、不登校の子が多いという事が話題になっている。実際のデータとして、不登校の子ども達が過去最多となっており、昨年出たデータでは、299,000人の小学生や中学生が不登校になっている。この数は10年連続で増加しており、今年度は、前年度より5万人が増える状況になっている。近くの中学校で実際に聞いてみると、300人規模の中学校でも、20人以上の子ども達が不登校になっていると聞いている。実際に、子ども達に居場所がない事が課題となっている。

江別市内には、スポットケアと言い、適応指導教室がある。しかし、江別市内には青年センターの1カ所しか無く、2024年からは野幌へ変わる。市内全域で、子どもの足だけでは全員が通って行けないような場所にあるのが現状になっている。また、居場所としても、新しく出来る事の情報収集をしているが、小学生や中学生が本当に居やすい場所なのか、まだ分からない。フリースクールは数年前まで文京台に1ヶ所あったが、現在は経営困難でフリースクールは市内に存在していない。私達の想いとして、子ども本人にとって、また保護者にとっても、居場所となる所が欲しい。

みんなのいえの居場所支援のため、2024年度に本格的にスタートさせる事になった。で、名前は大麻ベース、名前の一部はベースキャンプから取った。場所は、みんなのいえで行う。学童保育がある夏休みや冬休みを除く、週1回を予定している。学童保育が始まる前の午前中に開設され、参加費は無料、小学校1年生から誰でもが対象で参加でき、そして保護者の方も参加できる。

目的は、子どもにとって安心して自由に過ごせるように、何もしない事も保証しながら、自分で何かを決めて過ごして良い居場所づくりにする。保護者側としても、保護者同士が繋がれる場所として、本心や心配事を話しながら、繋がりの場所になれば良いと思っている。必要物品としては、おもちゃやボードゲーム、塗り絵、折り紙の他、保護者がくつろいで話しやすいように、お茶等も考えている。経費として、継続するためにはボランティアの気持ちだけでなく、今いるスタッフ14人の中で出し合った寄付会費から人件費もかける。

大麻ベースをスタートするための課題として、居場所の必要を感じている方に情報を届けたいが、この情報を届けるのが私達の小さな団体には難しく、実施するからには保護者同士の繋がりもしっかりと作っていききたい。そして、活動の輪を広げて温かい地域づくりのために、平日に子どもが行き来するため、地域の方の理解も必要。そこで、講演会を企画する事にした。西野博之さんの講演会を企画した。ご存じの方も多いと思うが、川崎市子ども夢パーク初代所長であり、子どものために様々な活動をしている方になる。NHK あさイチ等、テレビにも多数出演している。

この方にスポットを当てた理由として、2022年、江別市PTA連合会で行われた講演会でお呼びした時に多くの反響があった。しかし、不登校児童当事者の保護者の方には、学校を通じて行われた講演会の情報が届いておらず、残念な気持ちがある。そのため、再びこの方をお呼びしたい。

予算としては、著名のある方を東京からお呼びするので、講演会の報償費が1番大きな支出となっている。次に消耗品費として子供のお茶代を挙げている。暖房費については、この協働のまちづくりの特徴として、物品購入代は計上できるが、維持費は出ない。本当は暖房器具を購入すれば許可されるとの事だったが、学童で使っている暖房器具があるので、そこに掛かる灯油代という事で計上している。

みんなのいえならではの支援を考える時、私たちの場所は商店街の中にある。学童保育は学校の施設内で行われている物もあるが、一度学校に出て、ただいまと言って帰って来られる場である事にこだわっており、商店街にある事でどんな方でも来やすい雰囲気になっている。中の雰囲気づくりも当初から皆でこだわってやっているのも、家のようにくつろげる場所となっている。更に、普段子ども達に接しているので、子どもに慣れているスタッフがおおらかな気持ちで、子どもと過ごす事が出来る。また、子どもの権利条例制定のために、常に学習会や勉強会など多く企画し、会員内の研修にも励んでいるので、スキルアップのアップのための学習も欠かさずに行っている。

大切なことは、このような支援が地域の中で切れ目なく継続し、地域の中で横の繋がりや縦の繋がりが網目のように広がり、子ども達を包み込んでいく事が大切。それが、私達ならではのみんなのいえで実施する不登校支援となっている。学校にたとえ行けないことがあったとしても、大事なのは学ぶ場ではなく多様な場所であり、それが保証される事を子ども達に伝えたい。

◆ 質疑応答

【選考委員】

最初に議論になった点は、10万円を講演会で使用しているが、他にも方法はあるように思う。説明の際に映画の上映会という記載もあった。その中で、なぜ講演会に10万円かけてまでこの方をお呼びするのか。募集要項の中にも報償費として2万円を超える場合には見積書が必要であるため、多少不利な点もあるので説明願いたい。

また、宿泊費が2泊も設定されているが、2泊もいらないのではないかと。講演会に来るだけであれば1泊でもいいのではないかと。そのような意見も出ていたので、補足説明をしていただきたい。

【発表者】

まず、報償費で10万円の点について、西野博之氏の講演は10万円から承っており、PTAでお呼びした時も15万円～20万円程だった。講演会については、いろいろと企画をしていて、小さな講演会も開く予定はあるが、私達の会の力だけではできない、この協働のまちづくりの力を借りてこそできる講演会を考えた時に、西野博之氏の名前が挙がった。この方をお呼びすることにより、普段の私達の活動範囲だけでなく、幅広い活動を知るチャンスと捉えている。

また、宿泊費が2泊になっている点だったが、例えば、宿泊に余裕があれば、保護者の方や子ども達と野幌森林公園の中を一緒に散策しながら、交流する事もオプションとして企画出来ないか模索している。講演会で呼ぶだけであれば1泊でも出来るが、プレーパーク初代所長だった事による、子供の遊びや自然との関わり等も付随して、保護者の方々と何か出来ないか目論んでいる。

【選考委員】

この活動はなかなか表に出ない、不登校になった様々な理由を抱えた子どもを対象としており、非常に有意義である。それと同時に失敗が許されない、非常に勇気ある初めての取り組みだと思う。ぜひ成功して頂きたいと思う。計画書を拝見したところ、講習会や学習会を組み合わせしていくとの事。これは、会として色々な方、あるいは経験した保護者の方の話を聞く事により、参加されたお子様だけでなく、特に不登校児童の保護者の方から解消していくようなヒントが得られるのではないかと期待している。

そうした中で、今回の申請は殆どが講師料で取られてしまう。全4回の予算を見ると、約75%がこの1回目の講師料で使用されてしまう。それも大事であるが、できれば道内の方にも様々な経験のある方もいると思う。模索しながら学習会や講習会、あるいは江別市教育委員会や札幌にあるフリースクールにコンタクトを取り、その先生からご厚意で講演して頂く等の手段があるのではないかと。

【発表者】

講習会や学習会に関しては、予算としてこちらに請求しないため一覧に出ていないだけであり、私達の中で、多くきめ細やかな計画を考えている。

【選考委員】

緩やかな場所としてサードスペースを提供し、子ども達が行ける場所が出来る事はとても良い取り組みなので、ぜひ成功して欲しい。

不登校になったお子様やお友達がなかなか出来ない子ども等、様々な事情を抱える子がいると思うが、スタッフ側には専門的なスタッフはいるのか。

それに加え、中高生の支援として英語の先生がお越しになったとの事だが、ボランティア募集をすれば、他の科目でも手を挙げてくれる方がいるのではないかと。市内にある様々な場所に声を掛けて、講師を発掘して頂く手段もあるように思う。

まず、対象地域は大麻で行うとあるが、他の地域のも色々展開していく事が出来る事業なため、子どもの心理的な問題に対応出来る専門的なスタッフがいるかどうか、その点は重要なのでお答え頂きたい。

【発表者】

どの程度までを専門家とする事によると思うが、現在のスタッフの中では不登校に特化した専門家と呼ばれるスタッフはいない。

スタッフは保育士や教員、元教員、元養護教諭、教員免許持っている者、それからCAP講座を修了した者で構成されている。私達の活動は先程説明した通り、プレーパークの活動や学習支援等、様々な活動を始めているが、不登校支援については2019年設立時から議題に上がり続けていた。

活動6年目の現在でも、不登校の子ども達が抱えている繊細な問題や保護者の方々の問題に対して、気軽に始めて良いか、スタッフの中で何度も話し合いを繰り返してきた。そうした中で、外出する事に対しての苦しさ等を実際に保護者の方から多く聞く中で、緩やかで、高い専門性よりも誰でも

来て良い場所であり、自分でその場所はどう過ごすかも決めていくような場所として、緊急的に実施してみようという判断になった。この取り組みに関して、どこまでの専門性がどのぐらい必要なのか、私達も手探りしながら、市内にいるカウンセラーの方々等と繋がっていきたい。

【会場】

ぜひ、発信力を見せて欲しい。SNSは無料で、発信力が無いのにお金掛けて講演会を実施したり、チラシを用意したりするのは2の次の話。まず無料で使える発信として、SNSを実践して欲しい。

【発表者】

SNS発信に取り組んでいく。

【聴講者】

不登校の子ども達に対して様々な活動をしているとの事だが、学校を休み家に閉じこもっている方にプログラミングを教える事が出来ないか。私は子どもに対して無償ボランティアでプログラミングを教えている活動をしており、私も協力出来るのではないかと思いますと質問した。

【発表者】

私達は、不登校の子ども達が外に出るために、その一歩を踏み出す為の支援をメインにして活動をしている。

【聴講者】

不登校の子ども達が家に出られないのであれば、直接家に行ってそのような支援をしているのか。

【発表者】

不登校の子どもと行っても、それぞれ多種多様な理由があると思うので、どの程度の子達を不登校と捉えるのか、こういった子であればこの場所でこの活動が出来るのではないかなど、三者三様に思う事がある。もちろん、プログラミング教室に行って元気が出たという中学生の子の話も実際に聞いたことがある。学校だけじゃない、新しい取り組みで得るものがあり、元気出た子も多く居る。私達が活動している居場所の目的は、何もなくても良いし、ボードゲーム等で遊んでも良い。本読んでも良いしお話をするだけでも良い。あるいは一緒に散歩しに出掛けるのも良い。とにかく仲間と居る事を大切に考えている。私達が全て行うのではなく、市内の中で様々な活動をしている方々へ繋げていけるように、子ども達に何か興味のあることを汲み取りながら、こんな場所があるというきっかけ作りになれば良いと思っている。

【聴講者】

西野氏の講演会は非常に良いと思う。私もその講演を聞いた事があり、その方が10万円でお呼び出来るのであれば非常に安い。ただ、西野氏の講演会を実施後、大麻ベースの活動にどのように繋げ、活動を広げていくのか詳しくお話を聞きたい。

【発表者】

西野氏の講演会は、9月～11月の間の期間に設定している。本来、スタートアップの為の事業と考えると4月～6月に実施するのが一番良い。しかし、先述の通り、不登校による繊細な子ども達が来るので、私達の力量を見極めた上でスタートしたい。そのため、夏休みが過ぎた後に、この講演会を実施する事に意味を置いている。

そこで、西野氏の講演を多くの方に聞いて頂き、講演会の後にお母さん達が意見や感想等を話したい方が殆どなので、そこをきっかけにして繋がりをしっかりと深めたい。本日の意見を聞き、不登校の子どもと言っても捉え方や考え方、受け止め方等が様々で、一言では理解出来ない、言い表せない事を改めて実感した。この講演会を聞いた後に出てくるお母さん達の本音を聞き、話し合いの場を作りたい。

3. 特定非営利活動法人法人つながり



◆事業内容

○外部講師を招き、親子パン教室を開催する。1回だけでは、つながりを作ることは難しい為、3回シリーズで行い関係性を密にする目的で実施する。赤ちゃん連れでも参加しやすいように、カーペット敷きの部屋で行う。

当法人は、令和5年4月3日に設立した、子ども達の未来のために親同士の繋がり作りを行っている団体になる。子ども達が幸せになる為には、親が幸せで、特にママが幸せになる事ではないかと考え活動している。親が笑顔になれば、子どもも笑顔になれる。

令和5年度の活動事業を紹介する。まずは、ママの夜会の実施。これは令和5年度協働のまちづくり活動支援事業の事業として補助金を頂き活動した。働くママでも集まりやすい金曜日等の週末の夜に、料理上手なパパ達が子ども達も巻き込みながら料理を作り、ママ達は食事をしながら会話を楽しみ、子ども達も食事をしながら学生と一緒に遊び、親子で繋がりを作ってもらう事業を行った。本日発表している恩おくりの活動拠点であるおんくりの家を借り、3ヶ月に1回程度開催している。その

他の活動として、母の日イベント「作って遊んでプレゼント」では、フォトフレーム作りとシャボン玉作りを開催。次に、ファミリーキャンプイベント「キャンプ屋ジョーさんアテンドキャンプ」の開催。最後に、「親子パン教室 in 大麻扇町商店街」をおんくり家にてお試しで実施した。

親子パン教室の目的は、家族だけで子育てしている現代、繋がりが少なく、悩みを抱え、孤立している家庭も多い。親子パン教室を通じて、親同士が繋がり支え合い、みんなで子育てする関係を作るきっかけになるのではないかな。また、子どもパンを自分で作ることで、調理への関心が高まり、食育につながると考えている。

なぜ、親子パン教室なのか。当法人は、ママの夜会を行い、ママ同士が繋がれる場を提供しているが、ママの夜会だけでは繋がる事に時間が掛かり、会場に来るだけでもハードルがある。少しでもハードルを下げられる他の事業は何か、ママの声を聞くと、親子で活動出来る企画であれば参加しやすく、パン作りに興味があるママの声が多い。実際に札幌と江別で講師にお願いし、パン教室を1度ずつ単発で実施した。しかし、1度の実施だけでは繋がれないと思い、3回シリーズにして共通の関心事で顔を合わせる機会を増やせば、仲良くなる方も出てくるのではないかな。更に法人の活動を広く知ってもらうために、大麻以外の地区で行い、パン教室に参加した方がママの夜会に参加し、ママの夜会に参加した方もパン教室に参加する事で、良い循環が生まれることも期待して開催する。大麻扇町商店街は、大麻地区の端にあるので、江別駅周辺の方にとって参加しにくく、私達も法人として江別地区での活動経験が無いため、今回は挑戦的に広く全員に知ってもらう為にも場所を変えて実施する。

親子パン教室の内容として、周知方法はチラシを作成し、近隣のこども園や幼稚園、保育園、福祉センター、ぽこ あ ぽこ、市役所、そして私が繋がっている団体等にも掲示してもらう。まんまる新聞にも掲載依頼予定。発信方法のメインはSNSであり、Instagramを運用しているので、そこで集知、集客をしていきたい。参加は原則事前申し込みで8家族を想定して会を開催する。8家族限定の理由として、1人の先生が教える事の限度がある。会費は、子どもが多い世帯でも参加しやすいように、ママの夜会と同様、1家族500円に設定し、開催は、6月、8月、10月の3回、週末の土日祝日の会場が空いている日で調整する。開催期間に間が空いてしまうと、ママ同士がどういふ方か忘れて仲良く出来ないのでは、期間は短くして、2か月おきに3回実施予定。講師は、市内在住のおうちパンマスターの資格を持っている方に依頼する。場所は、江別市総合社会福祉センターの大広間を予定している。赤ちゃん連れのママでも参加しやすいよう、カーペット敷きの部屋で、子どもたちも走り回れるような場所を準備した。場所の選定のイメージは、公民館等の調理室のような、調理台が6つに分かれているような所では離れてしまい、お互い気軽に話しかけられず繋がりがづらい。それなら、低いテーブルで床に座りながら、同じテーブルで皆と一緒にパンを作り、和気あいあい楽しくやりたい。もしかしたら赤ちゃんがパン作りに加わろうとして、テーブルにつかまり立ちして小麦粉をひっくり返して散らかしてしまい、ママが慌ててしまう所も、他のママ達が「しょうがないですよ」「あるあるですよ」等と言いながら、笑って楽しく過ごす空間を想像して場所探しを行った。

予算については、自己資金92,310円。参加費は1家族から500円頂く為、全て定員に達した場合で12,000円。合計104,310円の収入となる。支出は委託費として84,000円を計上し

ている。この講師の方が行っている講師料は 3,500 円が基準のため、3,500 円を 8 家族 3 回、食材費も含めてこの額になる。使用料・賃借料として、江別市総合社会福祉センター 3 回分の料金となる。印刷製本費ではチラシ 300 枚 6,000 円。これは印刷料金が安いラクスルに依頼予定。消耗品費の項目は料理をする当たり細かな物を計上して、1 回の開催で 2,000 円とし、3 回分の 6,000 円にしている。支出額は合計 104,310 円。今回の協働のまちづくり活動支援事業補助金の申込額は 69,000 円になっている。

終わりに、これはママの夜会の時にも話したが、1 人でも多くのママ達が笑顔になれば、その子どもたちも笑顔になり、周りにも良い影響を与えていく。親同士が助け合う背中を見せていくことで、子どもが親になった時、きっと同じように助け合って生きてくれるのではないかと信じている。子ども達の未来を想像しながら、親同士の繋がりを意識した活動を続けていく。

◆ 質疑応答

【選考委員】

ママ達は毎日が子育てに必死で、本当に大変な事は私も経験しており非常によく分かる。今回の表題を見た時、なぜパンなのかという疑問があった。パンを作るにあたり、粉使うので、部屋中粉だらけになったり、ベトベトになったり、大変な事になってしまうのではないかと。そうであれば、おにぎりでも良いのではないかと。または、サンドイッチでも良いのではないかと。サンドイッチであれば、既に完成されているパンを使い、挟むだけでも十分に子ども達は楽しんでくれるのではないかと。

また、費用面でも、一家族 3,500 円を 8 組分は高い気がするがどうなのか。この 2 点についてお答え頂きたい。

【発表者】

なぜパンなのかという点は、これはママの夜会でママ達に話を聞いた際、パン作りに興味があるという声が多く、ママ達が興味を持っているパン作りであれば、きっと集客する時もママ達が集まってくれるのではないかと期待している。粉の話があったと思うが、この点で会場を決定するのに非常に苦労した。市の会館だと床を汚してはいけない決まりがあり、パン教室の時点で使用出来ないとと言われてしまった。何件か施設を回っても見つからず、最終日に社協にお問い合わせした所了承して頂き、掃除機を掛ければ良いと言って頂き、今回申請する事が出来た。

費用面については、おうちパンマスター資格を持った講師であり、今まで教室を受けた方達から平均して頂いている額が 1 家族 3,500 円であるため、その額で計上した経緯がある。

【選考委員】

この活動は、令和 5 年度に実施したママの夜会から更に発展した活動と捉えて良いか。親同士、子ども同士の、繋がりをさらに強くしていくために 3 回開催するとあった。これは、参加する度に参加者が変わってしまうと繋がりが出来ない為、3 回とも同じ方に参加して欲しい期待があると思う。必ず、3 回とも参加してもらえる保証はあるのか懸念がある。もう 1 点の懸念として、最初に 8 家族と聞いた時、

パン作りであれば、広報の仕方によってはもっと参加希望者が来るのではないかと。先程、話を聞いた所、講師の方が見る事が出来るのは8組が限界と言っていた。可能であれば、なるべく多くの方が参加できるように、講師の方にも頑張ってもらいたい。

【発表者】

3回とも連続で参加してもらいたいの、今回3回のシリーズにしている。本来であれば、全て参加してもらえると一番良いのだが、もしかしたら、参加者の都合等で減る可能性があると思う。今回、初めて実施する事業であるので、今回の実施が駄目であれば、また違う方法で考えていきたい。

【選考委員】

これは前回も少し議論になったとの事であったが、8家族というのは、元々知り合いの家族が集まって、内輪の集まりになってしまうのではないかと心配がある。参加者の集め方について気になる。

もう1点、手元にある令和5年度の事業報告書を読むと、ご自身が自治会の青少年育成部長等を経験していく中で、限界を感じたという事であった。その当時の活動や事業内容を見ると、現代版子ども会のような活動のように感じた。

扇町で開催すれば、それを行う事により今後の繋がりに生かされやすい。元々同じ地域に住んでおり、そこで繋がりができれば、今後の子どもの運動会で会う事もあり、様々な機会での繋がりが生かされる。今年度は、江別地区で3回の開催だが、そのまま終わってしまうのではないかと。そこからの発展はどう考えて行くのか疑問が残った。

【発表者】

参加者の集め方に関してはママの夜会と同じ指摘があったのは承知している。その時は、ママの友達が、2回目に参加する時は友達を連れて来る事はあったが、私と繋がりが無い家族も多く参加している。実際に実施してみないと分からない点もあるので、今回は、実施しながら軌道修正等をしていきたい。

次に、扇町商店街で親子パン教室を行い、他にも様々なイベントを企画した事により、ママ達の繋がりは更に強くなっていると実感している。今回は、江別地区で親子パン教室を通して、参加者の声により、場合によっては来年度に江別地区でママの夜会をお試しで開催してみる事等も考えている。

【聴講者】

日常的なやり取りはLINEを使い、顔を出せる方は他のSNSとしてFacebook、イベントの報告はInstagram等、それぞれSNSの特徴を生かした有効な使い方があるので、様々なSNSを活用して欲しい。

【発表者】

ママの夜会でも、最後に繋がれるように案内するが、現在はSNSやLINEの他に、InstagramやFacebook等もあるので、そのようなSNSを活用して繋がるように、今回のパン教室でもアナウンスしたい。

【聴講者】

親子パン教室は、ママ達がやりたいという声で実施するという事は、ママ達さえ集まれば他は何でも良いのか。交流さえ出来れば良いと感じ取れたので、講師の都合でパン教室しか行わないという事か。

【発表者】

いいえ。様々な方法がある中で、今回声として挙げたのがパン教室であったが、他にも例えばものづくりを行いたいのであれば、それに詳しい方にも繋がりを持っている。ママ達に興味のある内容を聞きながら、繋がり場を企画し、セッティングして、きっかけ作りの場になればと思っている。

【聴講者】

私が行っている活動でも1度参加された方が、2回目以降も来てくれない事が悩みの種となっている。2回目以降も参加し続けてもらう為に、会員カードのようなものを作成して、参加し続ける事のきっかけ作りになればと考えている。継続して参加してもらうための1つの方法として参考にして欲しい。